



“地域のことは地域で考えよう”

2019年6月28日

## おきぎん県内景況・速報 2019年5月

### 一県内景況は、拡大している一

#### ■個人消費

スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。  
百貨店売上高は前年同月を上回る。  
家電卸出荷額は前年同月を下回り、新車販売台数は上回る。

#### ■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を上回る。  
生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

#### ■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も上回る。  
ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を上回る。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回る。

#### ■企業倒産

件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

### 現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2019年5月分)

◎2019年5月 おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

5月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月上回りました。百貨店売上高も前年同月上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月を下回りました。新車販売台数は前年同月上回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、市町村やその他の公共的団体などによる発注工事の増加などで前年同月上回りました。建設資材である生コン、セメントはともに下回りました。

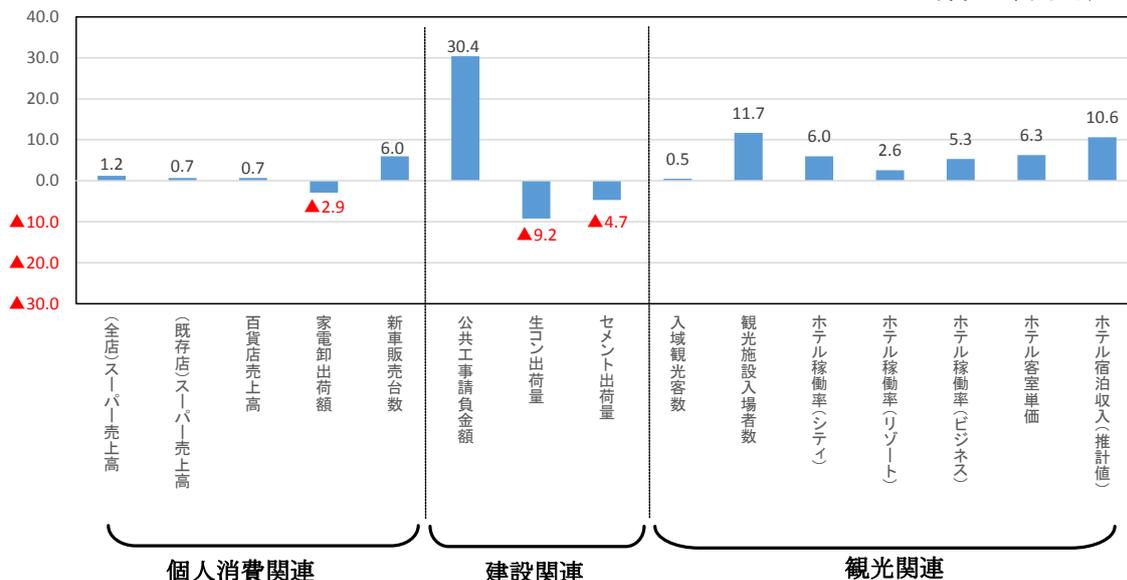
観光関連では、入域観光客数は8ヵ月連続で前年同月上回り、観光施設入場者数も前年同月上回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月上回りました。ホテル客室単価は前年同月上回り、宿泊収入(推計値)も上回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連では堅調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から64ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比

(単位: %、ポイント)



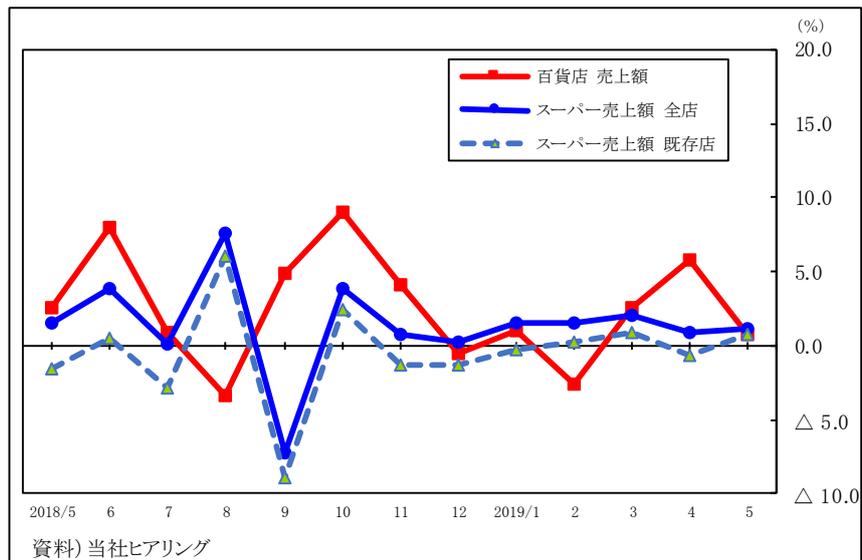


■ 個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。百貨店売上高も前年同月を上回る。

単位: %

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2018/5	1.6	△ 1.5	2.6
6	3.8	0.5	8.0
7	0.1	△ 2.9	0.9
8	7.6	6.1	△ 3.3
9	△ 7.2	△ 8.9	4.9
10	3.9	2.4	9.0
11	0.8	△ 1.3	4.1
12	0.3	△ 1.3	△ 0.5
2019/1	1.5	△ 0.3	1.0
2	1.6	0.2	△ 2.6
3	r 2.0	r 0.9	2.6
4	0.9	△ 0.6	5.8
5	1.2	0.7	0.7



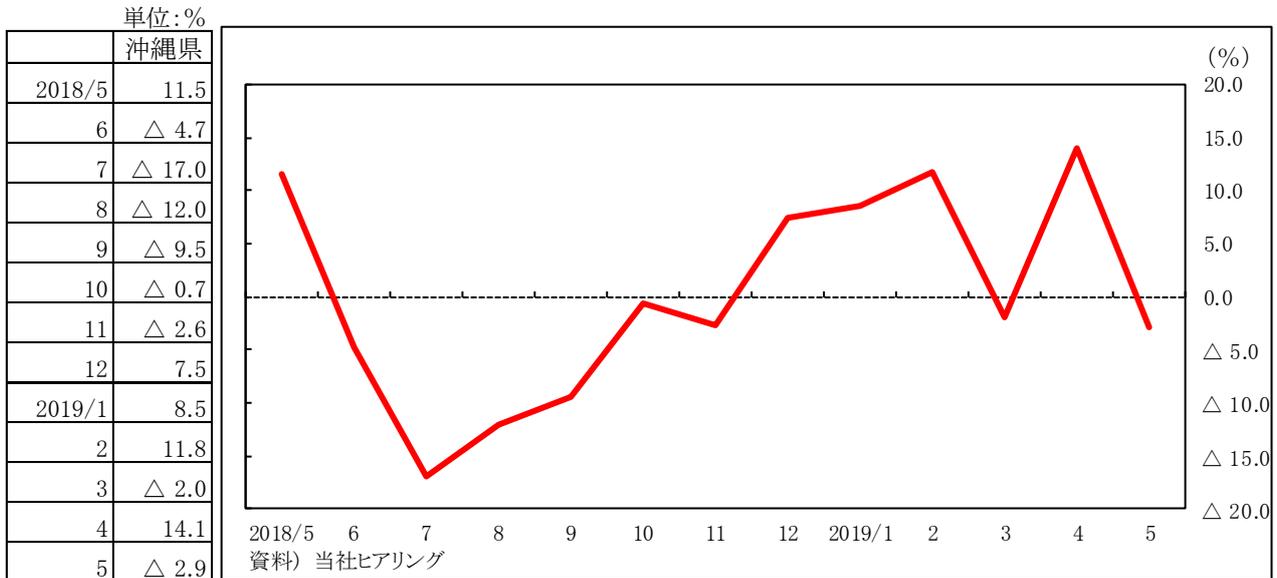
注) 前年同月比

5月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 1.2%増)」は、新規出店効果などにより、「食料品(同 1.9%増)」、「家庭用品(同 1.3%増)」などの売上が伸び、8ヵ月連続で前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同 0.7%増)」は、食料品の売上げが伸び、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。品目別では、ウエイトの高い「食料品(同 1.4%増)」は、精肉、鮮魚などの生鮮食品や、カット野菜等の簡便商品などを中心に、全般的に売上が伸び、前年同月を上回りました。また、「家庭用品(0.5%増)」は、ドラッグ等の売上が伸び、前年同月を上回りました。一方、「衣料品(同 6.3%減)」は、前年に比べ気温が低く推移した影響などにより、季節商材等の売上が伸びず、前年同月を下回りました。

百貨店売上高は、食料品、雑貨が好調だったことから、3ヵ月連続で前年同月を上回りました(同 0.7%増)。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品(同 6.1%減)」は、販促企画を行うも、前年に比べ気温が低く推移した影響などから、「紳士服(同 1.1%減)」、「婦人服(同 4.5%減)」、「子供服(同 13.6%減)」など全般的に売上が伸びず、前年同月を下回りました。また、「家庭用品(同 1.3%減)」は、催事企画の売上げが伸びず、前年同月を下回りました。一方、「食料品(同 4.5%増)」は、物産展が好調だったことから、前年同月を上回りました。また、「雑貨(同 9.0%増)」は、インバウンド需要は減少したものの、売り場のリニューアル効果などにより、前年同月を上回りました。

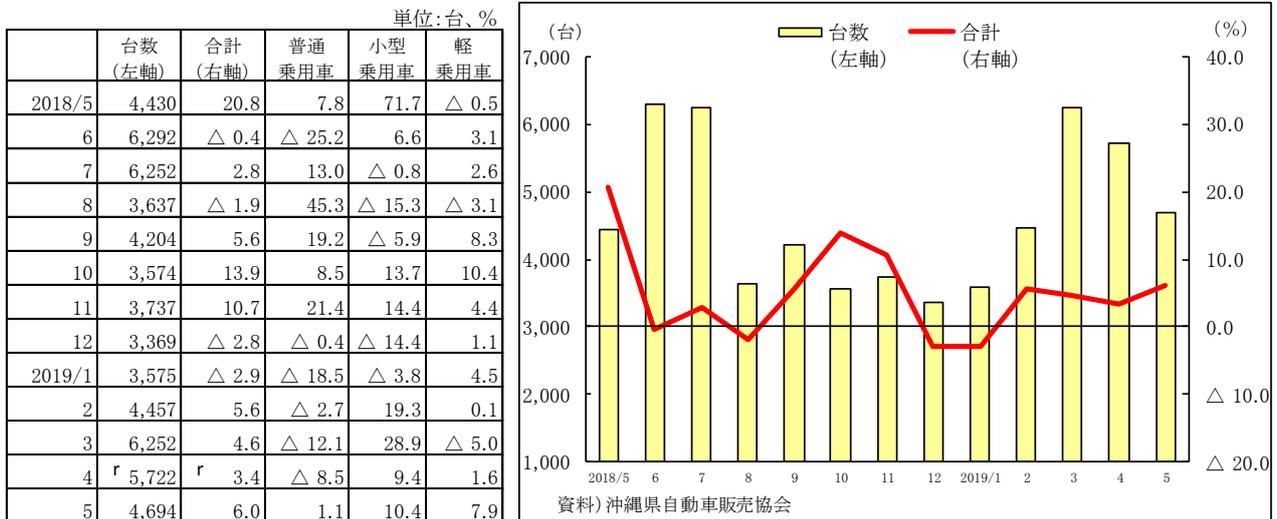
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は2ヵ月ぶりに前年同月を下回る。



注) 前年同月比

**家電卸出荷額**は、エアコンの売上が伸びず、2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました(同 2.9%減)。品目別では、「テレビ(同 48.5%増)」は、4Kチューナー内蔵テレビが好調に推移し、前年同月を上回りました。また、「洗濯機(同 10.3%増)」、「冷蔵庫(同 1.4%増)」は、買い替え需要が好調だったことから、前年同月を上回りました。一方、「エアコン(同 20.6%減)」は、前年に比べ気温が低く推移した影響などにより、前年同月を下回りました。

新車販売台数…新車販売台数は、4ヵ月連続で前年同月を上回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

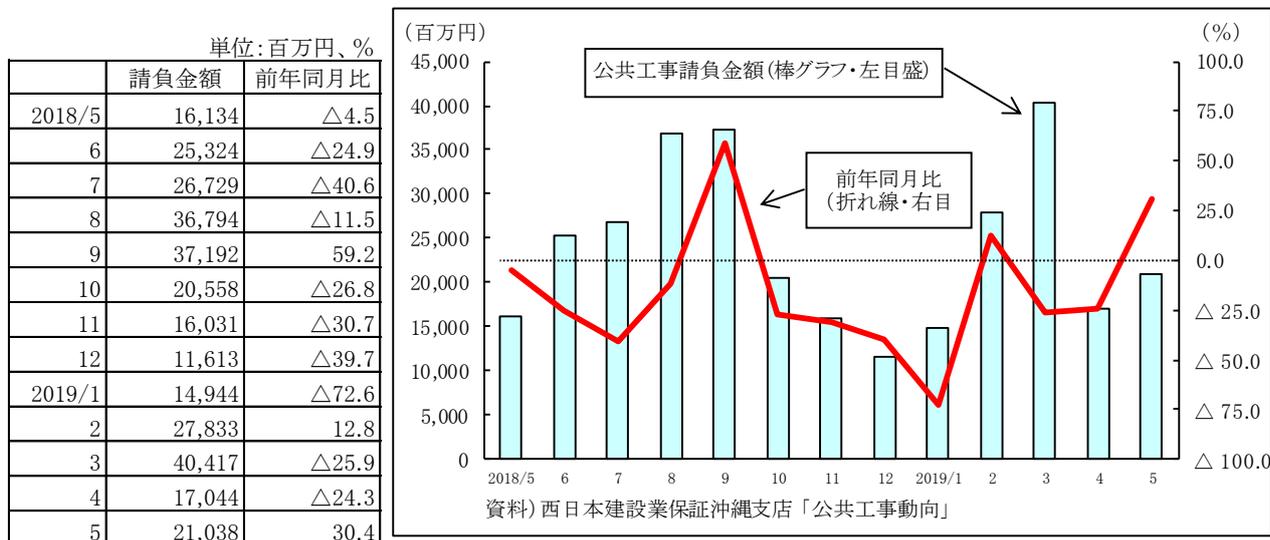
**新車販売台数**は、全体で4,694台(同 6.0%増)となり、4ヵ月連続で前年同月を上回りました。車種別では、「普通乗用車(同 1.1%増)」は、レンタカー需要は減少したものの、自家用車需要が好調だったことから6ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。「小型乗用車(同 10.4%増)」は、レンタカー需要の増加により、4ヵ月連続で前年同月を上回りました。「軽乗用車(同 7.9%増)」は、自家用車需要が増加し、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。



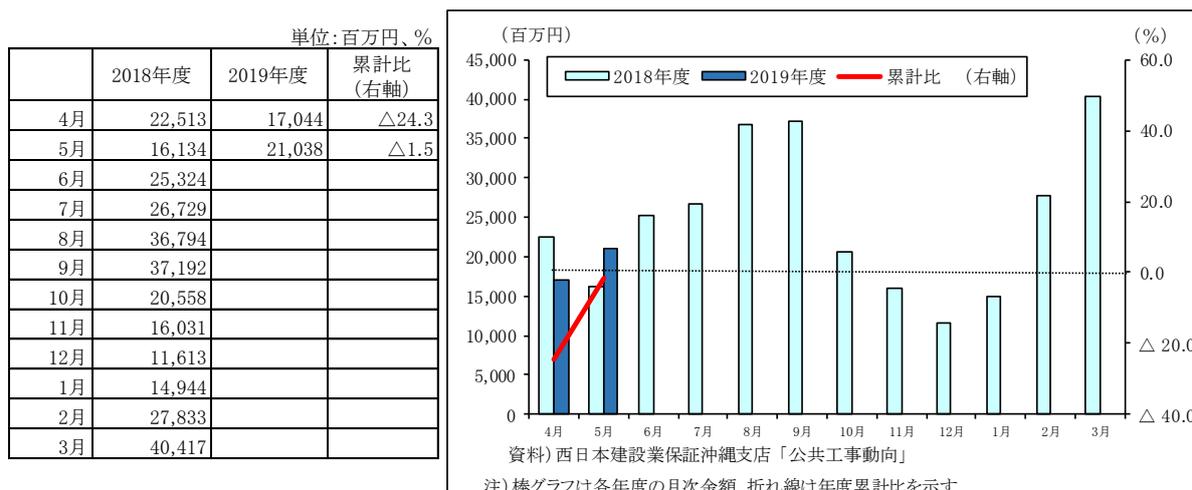
■ 建設関連： (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を上回る。



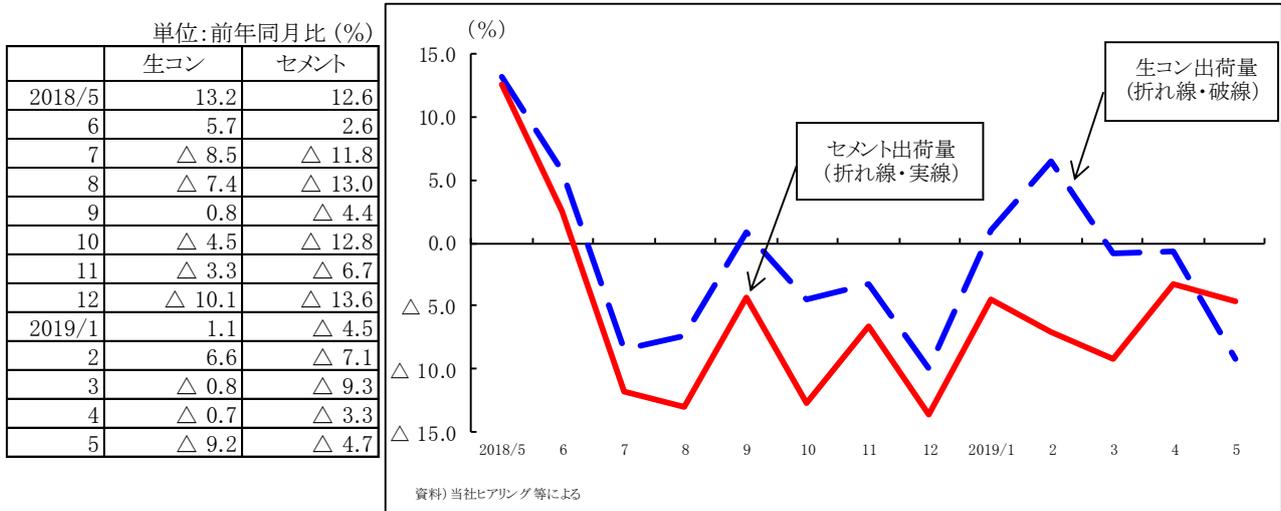
5月の公共工事請負金額は、前年同月比30.4%増の210億3,800万円となりました(3ヵ月ぶり増)。発注者別でみると、「沖縄県(同24.5%増)」のほか、「市町村(同114.8%増)」や「その他の公共的団体(同3821.0%増)」は前年同月を上回りました。一方で、「国(同28.0%減)」や「独立行政法人等(同99.8%減)」は下回りました。

【参考】公共工事(年度累計)・・・公共工事請負金額は前年同期を下回る。



今年度累計値では、1.5%減となっています。

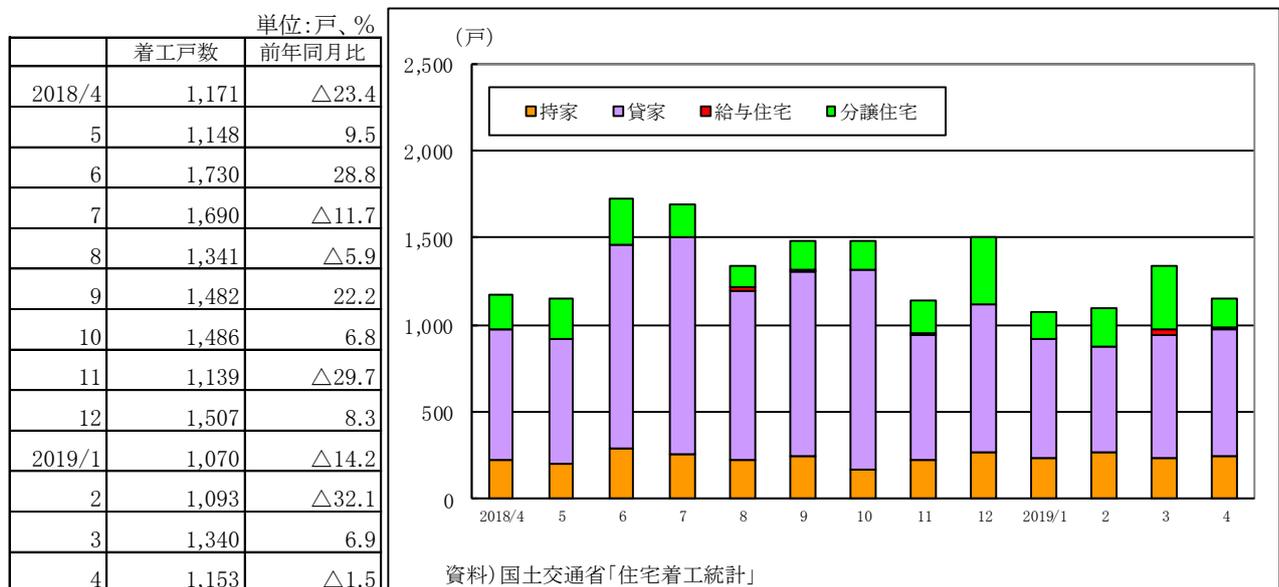
②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を下回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

**建設資材関連**では、生コンの出荷量は9.2%減と3ヵ月連続で前年同月を下回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より17.5%下回り、民間工事向け出荷は5.5%下回りました。セメント出荷量は4.7%減と11ヵ月連続で前年同月を下回りました。

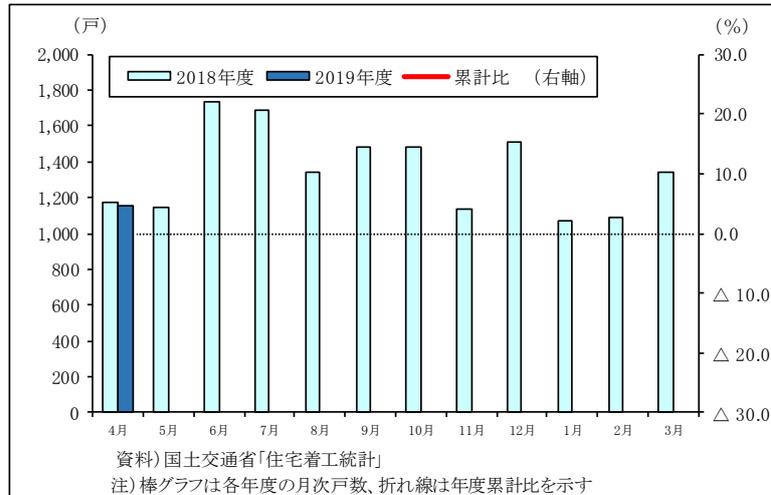
【参考】住宅投資(4月)・・・着工戸数は前年同月を下回る。



**新設住宅着工戸数**は、全体で前年同月比1.5%減の1,153戸と前年同月を下回りました。利用別戸数を見ると、ウェイトの高い「貸家(同2.8%減)」のほか、「分譲住宅(同13.8%減)」が前年同月を下回りました。一方で、「持家(同8.6%増)」や「給与住宅(同12倍)」は前年同月を上回りました。

住宅投資（年度累計）・・・着工戸数は前年同期を下回る。

	2018年度	2019年度	単位:戸、% 累計比 (右軸)
4月	1,171	1,153	△1.5
5月	1,148		
6月	1,730		
7月	1,690		
8月	1,341		
9月	1,482		
10月	1,486		
11月	1,139		
12月	1,507		
1月	1,070		
2月	1,093		
3月	1,340		



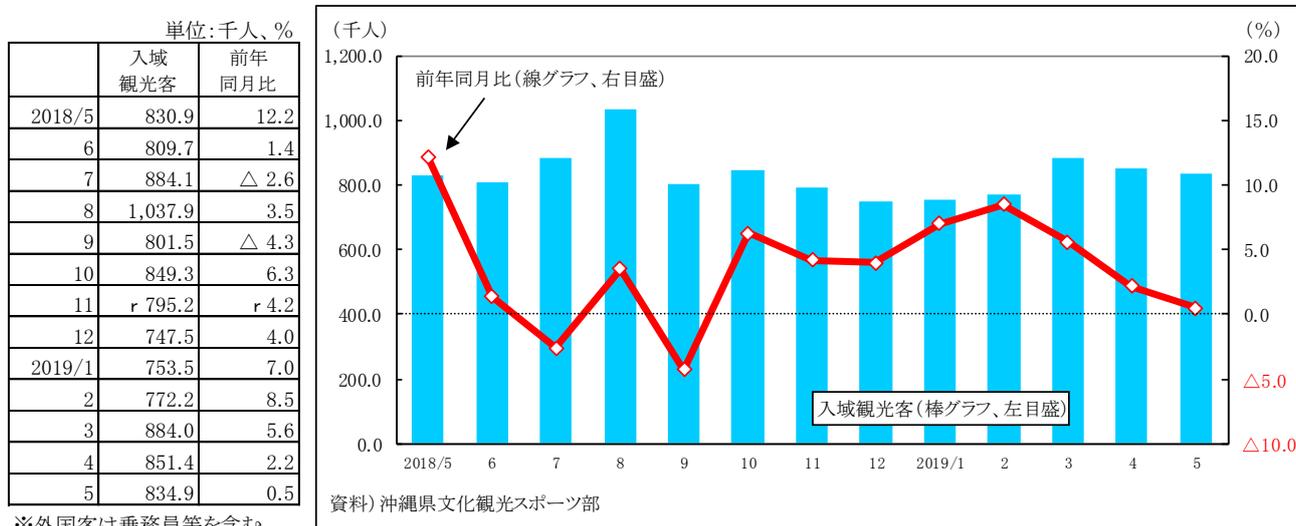
今年度累計値では、単月となりますが1.5%減となっています。

【参考】2018年度の新設住宅着工戸数は、全体で16,197戸となり4.6%減と前年度を下回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家(同6.1%減)」のほか、「持家(同7.6%減)」や「給与住宅(同67.9%減)」は前年度を下回りました。一方で、「分譲住宅(同11.9%増)」は上回りました。



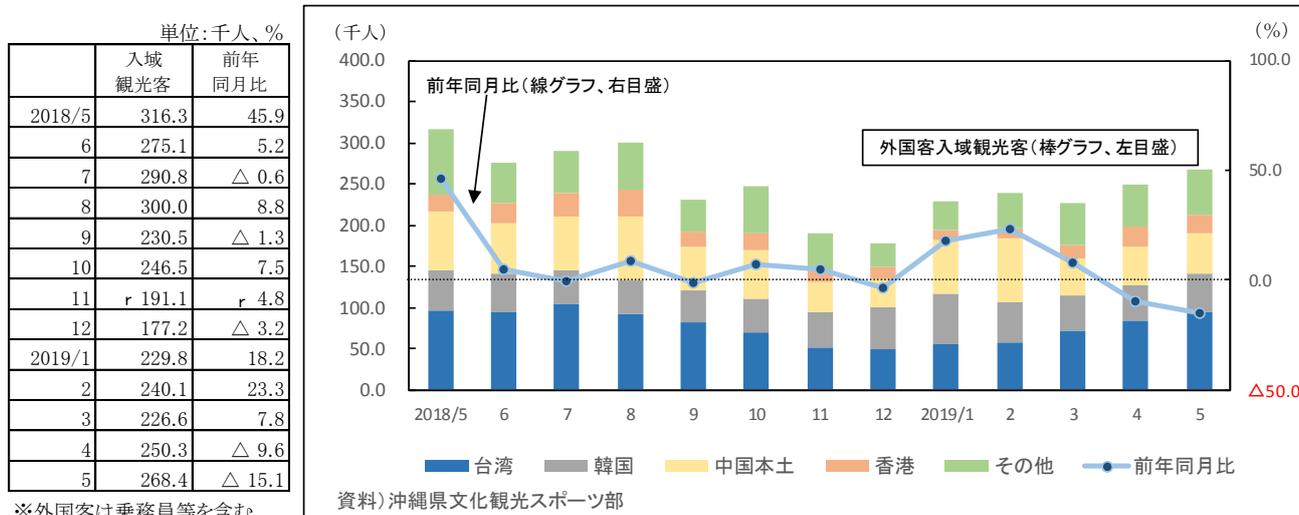
■観光関連： (良い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・8ヵ月連続で前年同月を上回る。



※外国客は乗務員等を含む

外国客 入域観光客数・・・2ヵ月連続で前年同月を下回る。



5月の入域観光客数は、4,000人多い834,900人(前年同月比0.5%増)となり、8ヵ月連続で前年同月を上回りました(5月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同10.1%増)」は566,500人と、ゴールデンウィークによる旅行需要の高まりがあったことや、航空会社の臨時便の運航があったことなどから、8ヵ月連続で前年同月を上回りました。

他方、「外国客(同15.1%減)」は、268,400人と2ヵ月連続で前年同月を下回りました。ゴールデンウィークが10連休となり旅行商品が高騰したことや、クルーズ船の寄港回数減少などにより、前年同月を下回りました。

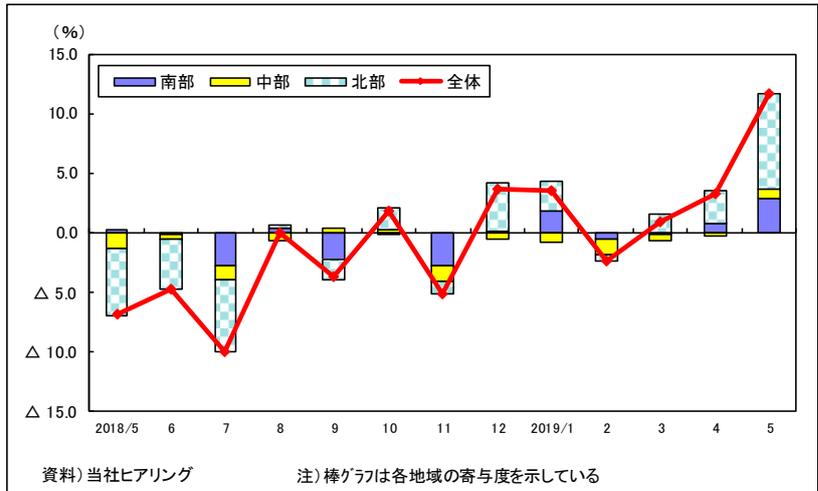
「台湾(同2.4%減)」「韓国(同6.6%減)」「中国本土(同30.0%減)」「香港(同4.7%増)」

※乗務員等を除く2019年5月実績＝全体801,400人(同2.9%増)、外国客234,900人(同11.1%減)、国内客は変わらない。

②観光施設入場者数・・・3ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:%

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2018/5	r△6.8	r 0.4	△12.7	△11.7
6	△4.8	△0.5	△4.6	△8.3
7	△10.0	△7.8	△12.2	△11.0
8	△0.1	1.0	△6.5	0.5
9	△3.7	△5.9	3.2	△3.4
10	1.9	△0.6	2.3	3.9
11	△5.2	△6.1	△11.3	△2.4
12	3.6	0.1	△4.3	9.8
2019/1	3.5	4.2	△6.1	5.8
2	△2.5	△1.4	△11.5	△1.2
3	0.9	△0.4	△4.7	3.4
4	3.2	r 1.9	△2.2	5.7
5	11.7	6.3	8.6	17.6



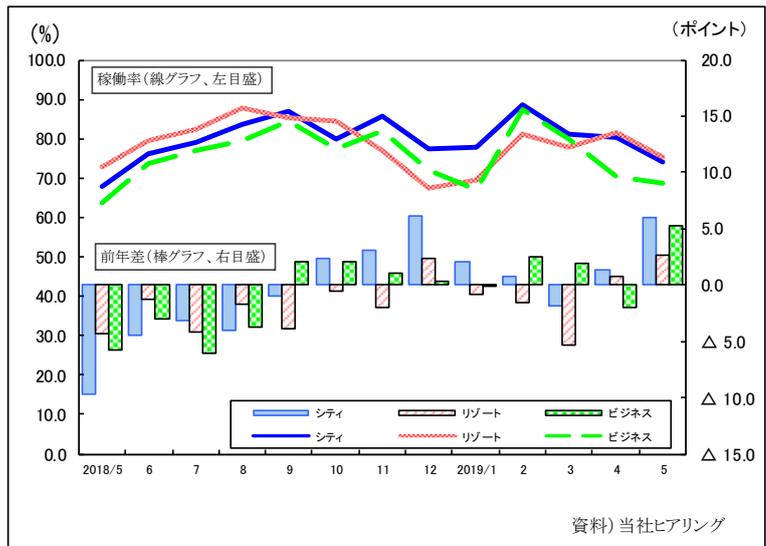
※調査対象施設数=南部6、中部5、北部4施設  
 ※2019年1月より、中部の対象施設数が変更(6⇒5)となったことから、2018年1月以降の数値を遡って改定した。  
 ※2019年3月より、北部の対象施設数が変更(5⇒4)となったことから、2018年3月以降の数値を遡って改定した。  
 ※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より11.7%増加(3ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同6.3%増と2ヵ月連続、中部は同8.6%増と7ヵ月ぶり、北部は同17.6%増と3ヵ月連続で前年同月を上回りました。

③ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を上回る。

単位:%、ポイント

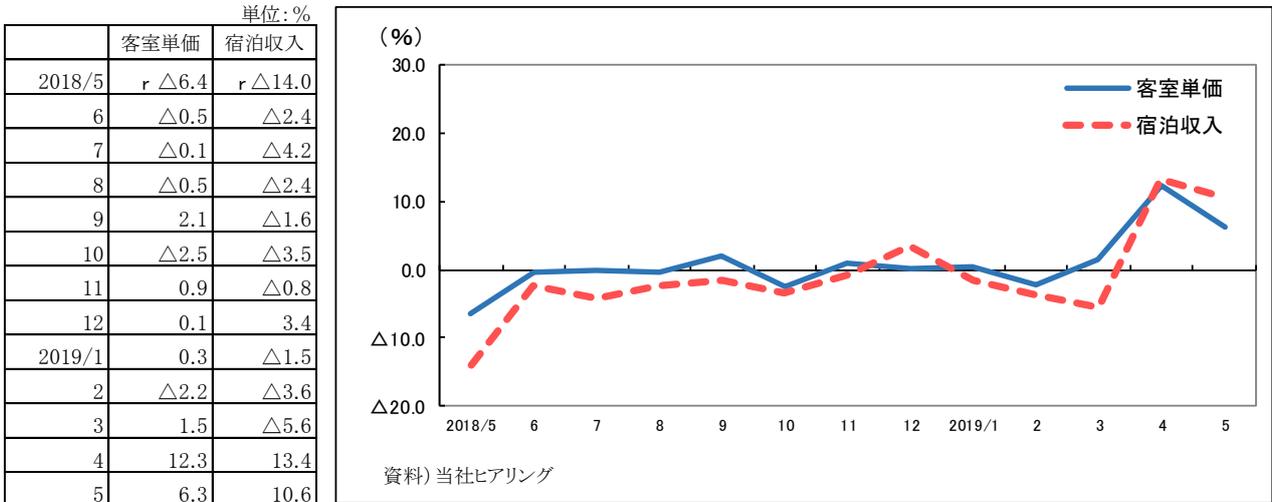
	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2018/5	67.9	72.9	63.5	△9.7	△4.3	△5.8
6	76.0	79.5	73.8	△4.5	△1.3	△3.0
7	79.0	82.4	76.8	△3.2	△4.2	△6.1
8	83.5	87.9	79.6	△4.1	△1.7	△3.7
9	87.0	85.4	84.3	△1.0	△3.9	2.1
10	79.9	84.4	77.3	2.4	△0.5	2.0
11	85.5	76.9	82.1	3.1	△2.0	1.1
12	77.4	67.3	72.0	6.2	2.3	0.3
2019/1	77.9	69.6	67.0	2.1	△0.9	△0.1
2	88.4	81.2	87.3	0.7	△1.6	2.5
3	81.0	77.8	80.0	△1.8	△5.3	1.9
4	80.2	81.4	70.5	1.3	0.8	△2.0
5	73.9	75.5	68.8	6.0	2.6	5.3



注)シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス6ホテル  
 注)2019年3月より、ビジネスホテル対象施設数に変更(7⇒6)となったことから、2018年3月以降の数値を遡って改定した。  
 ※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが73.9%と6.0ポイント上昇(2ヵ月連続)、リゾートホテルが75.5%と2.6ポイント上昇(2ヵ月連続)、ビジネスホテルが68.8%と5.3ポイント上昇(2ヵ月ぶり)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入も上回る。



※対象施設数:26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く  
 ※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)  
 ※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

**ホテル客室単価**(シティ&リゾート)は前年同月比 6.3%増と前年同月を上回りました。**宿泊収入**も同10.6%増と前年同月を上回りました。

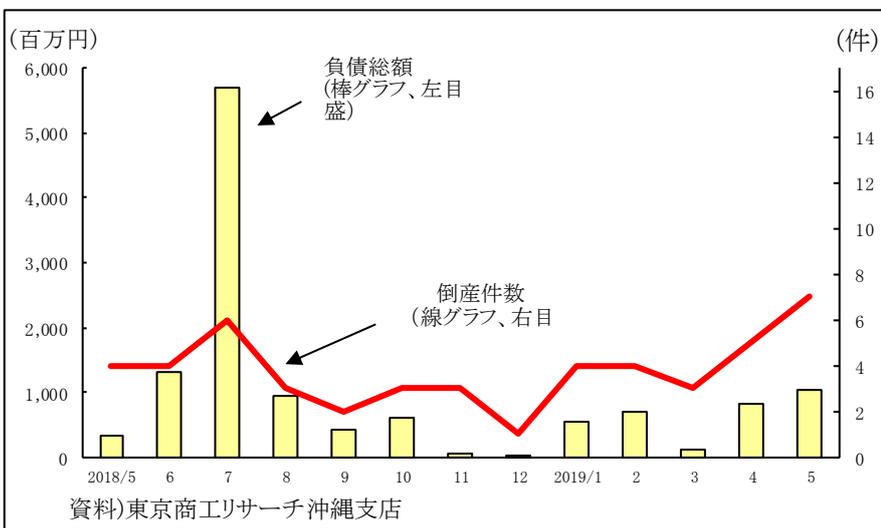


■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

単位:百万円、件

	負債総額	倒産件数
2018/5	347	4
6	1,317	4
7	5,697	6
8	941	3
9	414	2
10	605	3
11	56	3
12	10	1
2019/1	560	4
2	708	4
3	110	3
4	832	5
5	1,042	7



5月の企業倒産件数は、7件(うち大口倒産は2件)となり、前年同月より75.0%上回りました。  
負債総額は10億4,200万円となり、前年同月より200.3%上回りました。

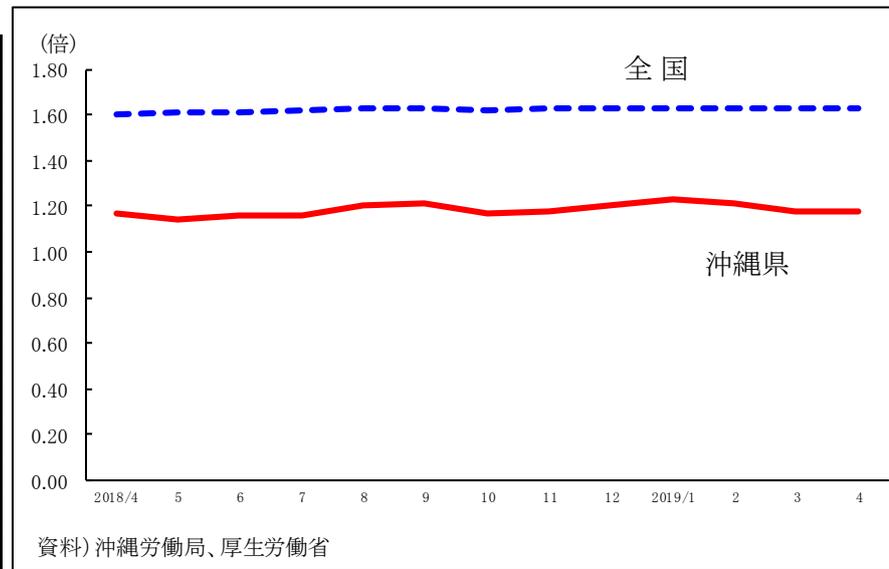


■雇用関連： (良い)

【参考】有効求人倍率(4月)・・・沖縄、全国ともに前月と同水準。

単位:倍

	沖縄県	全国
2018/4	1.17	1.60
5	1.14	1.61
6	1.16	1.61
7	1.16	1.62
8	1.20	1.63
9	1.21	1.63
10	1.17	1.62
11	1.18	1.63
12	1.20	1.63
2019/1	1.23	1.63
2	1.21	1.63
3	1.18	1.63
4	1.18	1.63

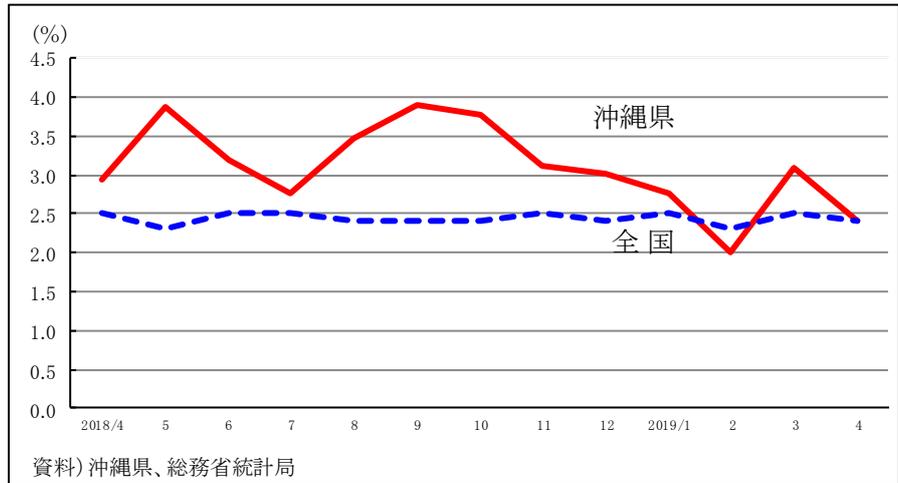


4月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比1.9%減の29,515人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比1.3%減の25,105人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.18倍となり前月と同水準となりました。

【参考】完全失業率（4月）・・・沖縄、全国はともに前月より低下。

	単位:%	
	沖縄県	全国
2018/4	3.0	2.5
5	3.9	2.3
6	3.2	2.5
7	2.8	2.5
8	3.5	2.4
9	3.9	2.4
10	3.8	2.4
11	3.1	2.5
12	3.0	2.4
2019/1	2.8	2.5
2	2.0	2.3
3	3.1	2.5
4	2.4	2.4

注) 季節調整済



4月の完全失業率(季節調整値)は、2.4%となり前月より0.7ポイント低下しました。